

(様式1)

令和4年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	生徒一人一人の夢や志の実現に向け、横断的・総合的な探究等を通して、課題の発見と解決に必要な知識及び技能など確かな学力を身に付けるとともに、魅力のある教育活動により豊かな人間性を育み、新しい時代を逞しく生き抜くための、主体的・協動的行動ができる人間を育成する。
------------	---

(2) 現状と課題	将来の自分に夢を持って真剣に進路を考え、学校生活を有意義に送ろうと考えている生徒が多い。しかし、基礎学力が定着していない生徒や学習習慣の欠如、基本的生活習慣が身についていない生徒も見られる。そのため、国・数・英・情報の少人数指導や学び直しの時間設定による基礎学力の定着、学習習慣や生活習慣の確立に向けた指導を行うとともに、教職員の連携により、学校行事や部活動等による体験的な活動、キャリア教育、資格取得を充実させ、一人ひとりの意識を高め、自己の進路志望実現に向けて取り組んでいく。
-----------	--

(3) 重点目標	1 基礎学力の定着・向上を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。
	2 規範意識を涵養し、責任を重んじる態度を育成する。
	3 自己と社会との関わりについて探究し、望ましい勤労観、職業観を育成する。
	4 自他を愛し、多様性を尊重し、寛容さと創造性を持ち、「生きる力」を育む人間を育成する。
	5 実践的研究の充実を図り、学校の教育課題を解決する。
	6 家庭や地域社会と連携し、地域活動への積極的な参加を通して、郷土に誇りを持ち、社会的に自立できる人間を育成する。

(4) 結果の公表	・学校ホームページで公表する。
-----------	-----------------

学校整理番号	22
学 校 名	浪 岡 高等学校
全日制の課程	本校

自己評価実施日	令和 5 年 2 月 8 日(水)
学校関係者評価実施日	令和 5 年 2 月 21日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員 4 名

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	基礎学力の定着・向上を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	・ 学習指導の充実 学習内容が定着するようなわかる授業展開の実践に努め、生徒個々の学習到達度を把握しながら、学ぶ喜びを実感させる。	・ 国・数・英や情報での少人数授業を実施し、一人ひとりに目を向け理解度を高めた。 ・ 1人1台の情報端末を活用し、対話的な授業を多く取り入れ、個々が主体的に活動する場を多く展開し、深い学びにつなげた。	B	・ 授業参観で改めて少人数授業の良さを感じた。生徒一人ひとりに目が行き届いていて良いと感じた。 ・ I C Tの活用は必要だと考えている。教師も生徒も情報端末をうまく使いこなせて行けるようになってもらいたい。	・ 生徒の確かな学力を付けるため、少人数授業を行って行きたい。 ・ 対話的な学習により、主体的に活動する場面を作る授業展開を行う。 ・ I C T活用の場面を増やしていく。
2	規範意識を涵養し、責任を重んじる態度を育成する。	・ 生徒指導の充実 心の結びつきを基調とした生徒指導を行い、生徒一人一人が、心豊かな学校生活を送ることができるよう生徒理解を深める。	・ 登校指導や挨拶運動を行い、日常の生活指導を充実させ、規範意識を培った。 ・ 生徒会中心のいじめ防止活動を行い、クラスごとの標語を決め、意識を高めた。 ・ 行事では個々の役割を与え、活躍する場を作り、活動させることにより責任感を高めた。 ・ 面談週間や浪高おしゃべりウィークを活用し、人間関係を構築し生徒一人ひとりの理解を深めた。 ・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門機関を活用し、多様な生徒への支援を行った。	B	・ 生徒に自分らしさを表現できる力や、自己主張の力をつけて、社会に出てからの人間関係をスムーズにできるように育てて欲しい。おとなしい生徒が多いと感じている。 ・ 責任感をもたせることは良いことである。 ・ 繰り返すことで、それぞれが意識するようになれば良い。	・ 日常生活の中で生徒との人間関係を築き、基本的生活習慣や規範意識を育成していく。 ・ 生徒会やホームルームの中で、生徒どうしの交流を深め、人間関係を構築し、自他を愛する心を育み、いじめの防止への意識を高めていく。 ・ いじめ防止対策委員と連携しながら、いじめ防止に取り組む。 ・ 学校行事等に積極的に取り組ませ、主体性・社会性を身につけていく。 ・ 外部の専門機関と連携し、生徒・保護者への支援体制を整備する。

3	自己と社会との関わりについて探究し、望ましい勤労観、職業観を育成する。	・ キャリア教育の充実 生徒の進路志望達成のため、生徒の学びと自己の将来とのつながりを見通しながら社会的・職業的自立ができるようキャリア教育の推進に努め、個々の生徒の資質・能力・適性の伸長を図りながら、計画的・組織的・継続的な進路指導を行う。	・ 3年間を見据えた、学年ごとや個別ごとに進路ガイダンスを実施し、一人ひとりが自分の進路について考える機会を与え、意識を高めた。 ・ 企業訪問やインターンシップの実施により、勤労観・職業観を磨く機会を作り、キャリアの育成を行った。 ・ 地域の有識者を活用し、講演会や実践的な模擬面接を行い、就職への心構えを育成した。 ・ 各種資格試験の実施により、キャリアを充実させた。	A	・ 自分が何の仕事に向いているのか、いろいろな職業人などの講演会やインターンシップ等を通して見つめられるようにして欲しい。たくさんの方の話を聞くことは良いことだと思う。 ・ インターンシップなどから働くことについて考え、自分が何をやりたいのかを早い段階で見つけ、それに向かう気持ちを持てるように育ててもらいたい。 ・ 目的や目標をもった人が成功していることを繰り返し伝え、生徒に意識させることが必要だと思います。	・ 総合的な探究の時間等を活用し、一人ひとりの能力や適性を見だし、3年間を見据えた進路指導を行う。 ・ インターンシップや進路ガイダンスなどを通して、勤労観・職業観を磨き、本校独自のキャリア教育を推進する。 ・ 各種資格試験を計画し受検機会を確保するとともに、対策講習などを行い受検を促し、キャリアの充実に取り組む。 ・ キャリア・パスポートの充実に向け、今年度挙げられた課題を改善していく。
4	自他を愛し、多様性を尊重し、寛容さと創造性を持ち、「生きる力」を育む人間を育成する。	・ 健康・安全指導及び道徳教育の充実 生徒が安心・安全な学校生活を送ることができる環境づくりに努めるとともに、個々の生徒が自ら健康・体力の増進を図り、安全な生活を営むことができる能力や態度を育成する。また、生徒が教育活動全体を通じて、道徳教育の充実に努め、一人の人間として道徳的な判断力・心情・実践的な意欲と行動ができるようにする。	・ 新体力テストを実施し、自らの健康・体力を向上させる意識を培った。 ・ 交通安全教室・防災訓練を通して、命を守るためにすべき行動を考える機会とした。 ・ 性に関する講演会や薬物乱用防止教室、SOSの出し方教室を通して、命の大切さや自他を愛する心を育成した。 ・ 保健だよりの活用により、安全・健康についてすべき行動を育成した。 ・ 学校行事を通して、他と協力することや相手を思いやる大切さについて、考え行動できるよう育成した。やればできるという意識を育み、生きる力を育成した。	B	・ これからも目標達成に向けて取り組んで欲しい。 ・ 他と協力することや相手を思いやる大切さについて考え行動できるよう、これからも活動させて欲しい。	・ 良好な人間関係を築くためのGWTを、感染症対策しながら内容の変更等を含めて工夫して実施する。 ・ 学校行事等で仲間とともに協力して活動する場面を作り、協調性・社会性を身に付けさせ、相手を思いやる心を育成する。 ・ 感染症対策をしながら高大連携キャリアサポートを実施して、生徒一人ひとりの進路目標について真剣に考える機会を設定し、意識の高揚を図る取り組みとする。
5	実践的研究の充実を図り、学校の教育課題を解決する。	・ 研修の充実と教職員の資質向上 教育活動の充実を図るため、校内・外における研修に積極的に参加する環境づくりに努め、教職員が自らの資質を向上させようとする機運を醸成する。	・ 外部の教育関係研修会を活用し校内研修を行い、生徒理解の質を向上させた。 ・ 特別支援教育力の向上のため、ユニバーサルデザイン研修を行い、授業力向上と改善の手法を学び、教育活動充実に結びつけた。 ・ ICT活用例の情報を提供し、タブレット活用に向け意識を向上させた。 ・ 自らの資質向上のため、各種研修会への参加を促した。	B	・ 先生方も研修会等を通して学びを深めていることに感謝申し上げたい。 ・ 先生方も外部の研修等を活用し、自らの資質の向上に励んでおり、生徒のために取り組んでいることは良いと思う。	・ 多様な生徒へ対応するために、外部専門機関と連携し、教職員の資質・能力の一層の充実を目指す。 ・ 授業力向上と改善のため、研修の機会を確保する。 ・ 授業アンケート等を活用し、授業改善に向けた対策を行う。
6	家庭や地域社会と連携し、地域活動への積極的な参加を通して、郷土に誇りを持ち、社会的に自立できる人間を育成する。	・ 地域に信頼される開かれた学校づくりの実践 家庭・地域との連携や積極的な情報発信により、保護者や地域の人々から信頼され、必要とされる開かれた学校づくりを実践する。	・ 空き缶壁画活動を通して、家庭・地域の協力を得、活動の情報発信により、連携・理解を高めた。 ・ 探究活動を活用し、ごみ問題など地域を知る活動を行い、SDGsの取組などにより郷土への理解を深め、郷土への誇りを持たせた。 ・ 学校教育活動を学校ホームページや学校だより、YouTube、SNS等を活用して保護者・地域へ積極的に発信できた。	A	・ 生徒数が減少しているにもかかわらず、空き缶壁画を継続していると感じている。年々立派になっていると思う。閉校まで続けて欲しい。 ・ YouTubeやSNS等で浪高の良さを発信し、生徒の確保につなげて欲しい。	・ 伝統の空き缶壁画活動を通じて、家庭・地域の理解と協力を得て、活動状況を発信し、さらに関係強化に取り組む。 ・ 地域の有識者等を活用し、歴史や文化について知り、郷土に誇りを持ち社会的に自立できる生徒の育成を行う。 ・ ボランティア活動等を奨励し、地域に貢献する意識を育成する。 ・ PTA・後援会・同窓会等と連携し、学校評議員等の意見を集約しながら、より開かれた学校づくりを行う。
(11) 総括	今後も空き缶壁画活動や学校行事、部活動等を通じて生徒の積極的な取り組みを支援し、地域の活動やボランティア活動等を通して地域と連携しつながりを大切にした学校づくりを進める。毎日の挨拶運動を通しての生徒指導、少人数授業による学び直しと基礎学力の定着、インターンシップを含め3年間を見通したキャリア教育を行い、多様化している生徒の理解に基づく一人ひとりの実態に即した進路指導を全教職員一丸となって推進していく。学校評議員会から見えてくる課題等を整理して学校運営に反映させていく。					